

大きな枝を広げ、いっぱい葉を茂らせた木の下にたたずんでいると、緑の色に、全身が染まってしまうような心持ちになります。さわさわと風に揺れる葉の間から、太陽の光が、波のようにさざめきながら、私たちがやさしく照らしています。

太陽と、木と、私。それぞれ別の存在であるはずのものが、とけあっていくような気持ちになっていきます。

太陽と、木と、私は、全く別の存在です。太陽と私は同じではないし、木と太陽も同じではありません。

けれど、太陽の光を全身で受けた木は、陽の光をエネルギーに変え、自らの中に取り込みます。太陽の光は、そのままの形ではないけれども、木の中に存在しているのです。

木と私も同じです。私の吐く息は、二酸化炭素ですが、それを木が吸い込みます。木のはく息は酸素です。今度は、酸素を、私たちが体の中に取りこむのです。いうなれば、木の中に私が在り、私の中に木が在るのです。

これは、太陽と木、木と私だけの関係ではありません。

私は太陽や木だけでなく、私以外のすべての存在と関わり合っているのです。

木々の葉をざわめかせる風も、広々とした大地も、空を悠々と行く雲も、街を歩く人々も、みんなお互いに関わり合っています。

この世界に在るすべての存在は、互いに結びついているのです。あるひとつの存在は、他のすべての存在によって、成り立っているのです。

太陽と、木と、私。それぞれ別の存在であるはずのものが、深く関わり合って成り立っているのです。

一陣の風が吹いて、木の緑が、一斉にざわめきます。

私は、木漏れ日を浴びながら、世界との深いつながりを、静かに感じています。